

『福祉のまち、よこすか』をめざして

第4号
2003年7月5日発行

「障害」「障がい」にしたい！

- 知らないうちに人を傷つけているとしたら...

『障害』という漢字2文字の表記をあらためて、『障がい』という平かなまじりの表記をつかうまちが増えていきます。奈良市をはじめ、志木市、町田市などで、数年前からこの動きがはじまり、今では全国に広がっています。

けれども、これは、決して『言葉狩り』なんかではありません。

そもそも『しょうがい』という単語には『障碍』という漢字がつかわれていました。それが『碍』という漢字が常用漢字から外れてしまったので、『害』という漢字があてられるようになったのです。

この安易な漢字のおきかえは、結果的にたくさんの人々を傷つけてきました。

『害』はマイナスイメージや悪い意味を持つ漢字です。害虫、害悪、災害...

こうやって『障がい』を持つ人々に対して、無意識にマイナスイメージが持たれ、『障がい』を持つ方々を苦しめてきたと言えるのです。つかう側にとっては何の意図が無くても、つかわれる側にとってはとてもイヤな言葉なのです。

あなたの意見を聞かせてください！

- 市の回答は「そういう要望はあまり聞かない」

では、横須賀市の現状はどうでしょうか？

残念ながら、このまちでは現在も『障害』という表記をつかっています。そこで、フジノは6月の市議会でこの問題をとりあげました。民生常任委員会において健康福祉部長に対して質問をしました。

「横須賀市も福祉のまちをめざしているのですから、部署名をはじめ、条例や市の規則での表記を変更することで、全国に福祉へとくむ姿勢をあらわせるはずです。『障がい』を市の公的な表記に変えるべきではありませんか？」

これに対して市の回答はこうでした。

「『障害』という言葉によって苦痛が与えられるのであれば直さねばいけないが現在のところ、障がいを持つ方から変更してほしいという要望の声は特に無い」というものでした。市には、こういう要望の声は届いていないそうです！

そこで、あなたです。あなたはこの問題をどう思いますか？ぜひあなたの意見をフジノに聞かせて下さい！電話、FAX、メール、手紙、どんどんください！

政治家は「サービス業」です。「先生」ではありません。だから、おれを、こきつかえ！おれをこきつかえ！おれを、こきつかえ！

横須賀市議会議員

ふじの ひであき

藤野 英明

無所属・29才



市議会の中での、フジノのしごと

- 民生 常任委員会

このまちの議員は、必ず1つの委員会に入ります。福祉のまちをめざして政治家になったフジノは、もちろん福祉分野を担当している民生常任委員会に入りました！

- 「市議会だより」編集 委員会

広報紙『市議会だより』と、小冊子『ギカイでゲンキ！』（市内の中3の社会科副読本）の編集をしています。市議会の広報は、政治を身近に感じてもらうための、とても重要な仕事です。

- 議会IT化運営協議会 / オブザーバー

今年9月から、議会もインターネット中継を開始します。IT都市と評判のこのまちも、『議会のIT化』はまだまだこれからです。さらに効率的なIT化をすすめるために活動していきます。

市議会の外での、フジノのしごと

- (財)横須賀市健康福祉協会 理事

この理事職は、議員の中から抽選で選ばれます。今年は僕が選ばれましたが、決して単なる名誉職にならないために『報酬』は全て返却し、逆に意見や提案は日常的にしています。